

第 56 回 国際経済協力セミナー

外大生が国際機関インターンから得られるものは何か？

講演者：塚原早織氏、丸山惇氏、李青雲氏

草案作成：小野 可蓮

田浦 明里

竹内くるみ

文責：小林すみれ



講演者：塚原早織氏

派遣先：経済協力開発機構(OECD)パリ本部 Public Affairs and Communication 内 Media Division

派遣期間：2012年9月－2013年2月

塚原氏は、OECDのパリ本部5か月ほどインターンを行なった。講演では、OECDの基本的な説明をしていただき、業務内容、現地での一日の流れ、所感やインターンの成果等のお話を伺うことが出来た。

1. OECDについて

OECDは経済的に混乱状態にあった欧州各国の救済を目的に1948年に発足したOEEC(欧州経済協力機構)を前身として欧州経済の復興に伴い1961年にアメリカとカナダが加わったことで新たに発足した国際機関である。日本は1964年に加盟国になった。本部はフランスのパリに置かれている。

2. 業務内容

主な業務内容は世界中の人にOECDについて知ってもらうための広報活動である。詳しくは、毎朝世界中の様々なメディアから主要なニュースとOECDの活動に関するニュースをスクラップし、冊子を作成すること。その冊子の内容をテーマ別に分類し、データベース化すること。そして、各国のメディア情報を収集し、共有文書としてまとめることである。

3. インターンシップの成果

半年のインターンを終えた後、さらに半年間OECDで働くことができ、丸一年、業務に携わったことで国際機関の役割を理解することができた。さらに、一国では取り上げられないような、大きな問題をOECDで取り上げ話し合っている現場に参加することもできて国際機関のすごさ、規模の大きさを改めて認識したそうだ。また、日本での常識にとらわれず自分で考えて行動することが大変重要であることを実感したということであった。

講演者：丸山惇氏

派遣先：国際移住機関（IOM）のタイ事務所、経済協力開発機構（OECD）

派遣期間：2013年7月－2014年4月

丸山氏は講演者の中では唯一二つの国際機関へのインターンを行った。講演では、IOMでの業務内容や成果を中心にお話をいただいた後に、OECDとIOMを比較して見えてきたメリット・デメリットについて、興味深い話を伺った。

1. IOMについて

IOMのコンセプトは、「正規のルートを通して、人としての権利と尊厳を保証する形で行われる人の移動は、移民と社会の双方に利益をもたらす。」である。この通り、ここでは難民がほかの国に移住するのを手助けする。IOMには151カ国が加盟していて、12カ国のオブザーバー、126のオフィスが存在する。IOMは4つの移民政策の柱として、移民と開発、移民の促進、移民の規制、強制移住を掲げている。

2. 業務内容

移民をサポートすることにおいて重要なキーワードとなるのが、第三国定住であるが、丸山氏はインターン中に主にタイで出国前研修に関わっていたと話していた。その仕事内容は、テキスト作成、物資の調達、難民の人々の渡航に関するアレンジメント、といったところだ。ほかにも、IOMタイランド地方オフィスでの言語研修、文化研修のリソースパーソンも務めたそうだ。

3. インターンの成果

丸山氏はIOMのインターンを通じて、実際に難民の人々と触れ合い、どのような迫害を受けてきたか、そして異国へ移住することの決意を知り、自分の考えが変わったと話した。国際機関の職員に必要な素質を学び、体力勝負が必要な面もあると知った。それは一職員として仕事を任せられるからだ。また、仕事を行うにあたって与えられた時間は切迫しているため、ミスは許されないと知った。さらに丸山氏は、IOMだけでなく経済協力開発機構、通称OECDにもインターンを続けて行ったことで、比較的に小規模な国際機関と比較的大規模である国際機関で働く双方のメリット・デメリットを学ぶことが出来た。

講演者：李青雲氏

派遣先：国際連合教育科学文化機関（UNESCO）パリ本部

派遣期間：2013年8月－2014年2月

李氏は UNESCO のパリ本部にて 6 か月のインターンシップを行った。講演ではまず、派遣先についてお話を頂き、続いて現地での業務内容、最後にインターンシップの成果についてのお話を伺った。

1. 派遣先について

UNESCO の目的は教育、科学そして文化における国際協力を通じて政界の平和と人類の福祉に貢献することである。大きく分けて5つの局があり、それぞれが教育、自然科学、人文・社会科学、文化、そして情報コミュニケーションの業務にあたっている。李氏が派遣されていたのはその中でも情報コミュニケーションの局であり、表現の自由やメディア開発に関わる業務に携わっておられた。

2. 業務内容

業務内容に関しては大きく分けて、国際会議の準備、イベント企画への参加、出版物の編集に参加、デスクリサーチの4つの業務に関してお話を伺った。李氏はインターン中に行われた **The First Global Forum on Media and Gender** という国際会議の準備に携わった。さらに、**Woman Make the News** フォローWorld Radio Day 2014 というイベントの中国連絡担当の業務にあたったほか、メディアとジェンダーに関する国や地域の政策調査も行った。全体的にジェンダーとメディアに関する業務が大半であったような印象を受けた。

3. インターンシップの成果

インターンの成果としてまず挙げられたのが UNESCO の役割に対する理解だった。実際に働いたことで新しい発見が数多くあったようであった。外国語能力・異文化コミュニケーション能力の向上についても重点的にお話をしてくださった。李氏は週に二回フランス語のクラスを受けており、多くの場面でその成果が役に立ったと語っていた。加えて現地で働いたことで専門知識や人脈など貴重な財産を手に入れたということであった。

国際機関でのインターンシップを終えた院生の方々は、実際に国際機関での業務を体験することができ、自分のキャリア形成に大きく関わる成果を得ることが出来たと語っている。今回の講演は、受講した外大生が将来国際機関で働くことについてより一層興味を抱くような機会となったことであろう。